

GPIFの保有銘柄開示による国内株式市場への影響について

渡辺 桂士 CMA
小室 博史
竹内 光

目 次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 分析方法及び使用するデータ
4. 分析結果
5. 終わりに

1. はじめに

年金積立金管理運用独立行政法人（以下、GPIF）は、2017年9月末時点で157兆円を運用する世界最大の年金基金であり、日本の公的年金制度における積立金の管理・運用を行っている。GPIFは、年金事業の運営の安定に資するよう、

専ら被保険者の利益のために、長期的な観点から、年金財政上必要な利回りを最低限のリスクで確保することを目標とし、01年度の運用開始以来の累積収益額は63兆円となっている（注1）。

GPIFは、株式市場全体の価値向上を図ることで、運用資産全体の長期的なリターンを向上させるため、17年7月より国内株式における三つの



渡辺 桂士（わなたべ けいじ）

年金積立金管理運用独立行政法人 投資戦略部 課長代理。2006年広島大学工学部第3類 化学工学課程修了後入社。13年一橋大学大学院国際企業戦略研究科 金融戦略・経営財務コース（MBA）修了。



小室 博史（こむろ ひろし）

年金積立金管理運用独立行政法人 投資戦略部 主事。2007年三菱東京UFJ銀行入行後、債券運用及びデリバティブ取引を中心としたALM業務に従事。16年より現職。一橋大学大学院国際企業戦略研究科 金融戦略・経営財務コース（MBA）在籍中（17年11月時点）。



竹内 光（たけうち ひかる）

年金積立金管理運用独立行政法人 運用リスク管理室 主事。2011年厚生労働省入省。統計情報部審査解析室、年金局数理課勤務を経て16年より現職。